

はじめに

関西・大阪 21 世紀協会は、文化によって大阪を「世界都市」にしようという「大阪21世紀計画」を実現するための推進母体として、1982年に当時の大阪の産官学が一体となってオール大阪の形で設立されました。

以来、数次にわたって行動指針となるグランドデザインを策定し、1992年からは「文化立都」を理念に掲げて活動を続けてまいりました。2017年を起点とした第4次グランドデザインは2021年度までとなっており、この度2022年度以降の5年間を見据えた第5次のグランドデザインを策定いたしました。

新しいグランドデザインの基本的な構成は、まず今後5年間に関西・大阪地域が目指すべき方向について提唱し、それに向けて当協会が果たすべき役割を述べています。基本理念の「文化立都」は不変の理念として継承していますが、具体的な内容では、今回、新たな視点を加えました。

一つは、新型コロナウイルスのパンデミックの影響です。長期にわたって日常生活に多大の支障を生じさせ、新たな生活スタイルや働き方が生まれました。

もう一つは、2025年に開催される大阪・関西万博です。世界に向けて大阪・関西の魅力を発信する絶好の機会であり、総力を挙げた取組みが求められています。

これらの視点を加えた上で、様々な組織や団体・企業などが目指すべき方向を提唱し、当協会の行動計画をまとめました。

なお、後半では、第4次グランドデザインで掲げた事業に対する検証と評価を行い、これまでのグランドデザインの概要と組織の変遷を、「参考」欄を設けて記しています。

地域の振興を図るためには文化の力が不可欠です。今回のグランドデザインが皆様にとって幾許かでもお役に立てれば幸いです。今後とも関西・大阪21世紀協会へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年7月

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
理事長 崎元 利樹